



CSR Report 2020

SANKO

As an important part of your community,
we hope to, through our creativity,
contribute to the happiness in your life.

企業理念

私たちは
人類の永続と繁栄と幸せのため、
創造的思考をもって、
楽しく、真面目に、一所懸命行動し、
地域にとってなくてはならない
企業であり続けます。

目次

- 01 企業理念
- 02 ごあいさつ
- 03 環境への取り組み
- 08 地域への取り組み
- 10 コンプライアンスへの取り組み
- 12 社員への取り組み
- 14 会社概要・編集後記

ごあいさつ



みなさま、毎々格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。お蔭様で CSR 報告書(第2版)を発行することとなりました。今年度の事業活動や新しい取組を行って参りましたので、ご報告申し上げます。まず初めに、新型コロナウィルス禍により、私たちの生活や事業環境は大きく変わりつつあることを感じています。政府や地方自治体から「新しい生活様式」の提言があるように、私たちもその趣旨を理解し、変化していくかねばなりません。私たちはコロナ禍以前から

「働き方改革」を推進しており、従来であれば、緩やかに進めていく計画がありました。しかし、社会情勢の変化のスピードを考慮すると、「新しい働き方改革」として、分野においては即実践という気概で迅速に進めて参りたいと考えております。次にこの度改めて気づいたことは、私たちの事業の社会的役割であります。産業活動が低下しても、廃棄物は別のカタチとなり排出されます。具体的には、産業廃棄物量は減っても一般家庭からの可燃ごみ量が増えた現象であります。加えて、感染病であることを考慮すれば、平時より衛生的にごみが処理されることが望れます。その為、私たち自身も感染の予防に努め、かつ、濃厚接触が連鎖しないように処理施設を止めないための取り組みを行って参りました。自分たちの役割を認識できる機会となり、全社員がその対策をよく理解、順応し、感謝しています。これからも引き続き対策して参ります。

さて、本年度の取り組みのポイントは、一つにエネルギーの自給率向上であります。特に未利用資源の活用、再生可能エネルギーの活用は、環境を考える上で大変有意義だと考えています。二つに本格的に活動を始めた「サンライズさんこう」(特例子会社)の経営です。事業を軌道に乗せるには、まだまだ課題は山積しておりますが、社員はどんな仕事にも直向であります。その姿を見ながら、頑張ろうと勇気づけられる思いであり、廃棄物処理業の取得など、様々な取り組みを進めて参りました。三つに環境啓発活動であります。処理施設の見学者の受入、各集会での講演活動、子ども達への環境出前授業など、廃棄物処理の現状の理解を深めて頂く活動を行って参りました。来年度も積極的に行って参ります。

最後に、みなさま各々が大変な状況であろうかと存じますが、今のこの状況において、地域に必要とされる企業とは何か、常にそれを考え、社員一同、一所懸命に事業活動に邁進して参ります。何卒宜しくお願い致します。

代表取締役社長 三輪 昌輝

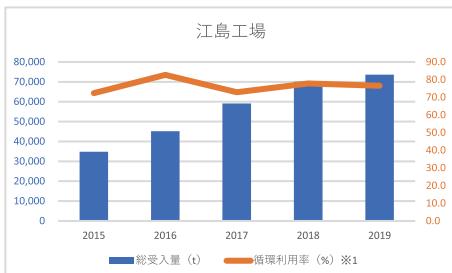


1. 環境への取り組み

設備の増設による処理能力増強と独自技術で再資源化を推進

当社の各工場における産業廃棄物の年間取扱量とりサイクル率をご報告いたします。年々廃棄物の処理量は増加しておりますが、リサイクル利用の推進に注力しております。

産業廃棄物の年間取扱量と循環利用率



※1 当社基準による循環利用率 循環利用率=再生量(総受入量-減容量-埋立)/排出量(総受入量-減容量)

※2 規格外品を除く

当社の取扱可能な廃棄物品目は特別管理産業廃棄物を含め28種です。また、2019年度実績で、廃棄物処理の年間数量は全工場合わせて約162,806t/年。

環境大臣認定取得、低濃度PCB廃棄物の無害化処理実績

当社は2013年8月19日付で、環境大臣より低濃度ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物の無害化処理認定及び収集運搬の広域認定を取得しました。これまで、2019年12月現在、合計約16,076tにも及ぶ低濃度PCB廃棄物の無害化処理を達成しております。

処分年(1~12月)	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	(t)
微量PCB汚染廃電気機器	-	-	-	2,898	1,978	1,011	
橋梁塗膜及びその他汚染物	-	-	-	1,367	3,060	2,771	
低濃度PCB廃棄物処分量	1,166	1,935	2,187	4,265	5,038	3,782	

※ 2019年は9月末時点における処理実績とする。

工場から排出されるガス類の分析データ

江島工場、潮見工場、ウエストバイオマス工場では、法律に則った頻度で外部機関による分析を行なう他、公害防止協定の厳しい管理基準値を遵守し、地域の方々に安心していただける工場運営に努めています。

排ガス測定結果

江島工場	測定値(最大)	法規制値
ばいじん[g/Nm ³]	0.001	0.08
硫黄酸化物[K値]	0.015	17.5
窒素酸化物[ppm]	102.0	250
塩化水素[mg/Nm ³]	13.3	700
ダイオキシン類[ng-TEQ/Nm ³]	0.015	1

潮見工場	測定値(最大)	法規制値
ばいじん[g/Nm ³]	0.002	0.08
硫黄酸化物[K値]	0.290	17.5
窒素酸化物[ppm]	71.0	250
塩化水素[mg/Nm ³]	53.7	700
ダイオキシン類[ng-TEQ/Nm ³]	0.015	1

ウエストバイオマス工場	測定値(最大)	法規制値
ばいじん[g/Nm ³]	0.004	0.15
硫黄酸化物[K値]	0.524	17.5
窒素酸化物[ppm]	141.0	250
塩化水素[mg/m ³]	47.2	700
ダイオキシン類[ng-TEQ/Nm ³]	0.000022	5

※ 法規制値とは、「大気汚染防止法」に基づく排出基準値を指す。

※ 測定値は2019年3月現在の値。

CO₂削減に貢献するJクレジットの創出

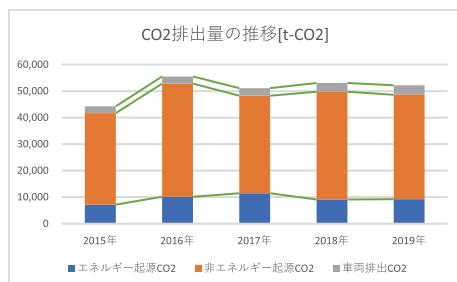
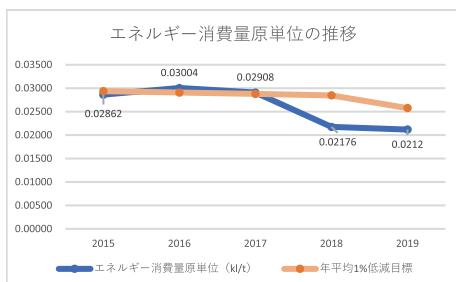
江島工場、潮見工場では焼却炉で発生する蒸気を活用して、工場内で使用する電力を発電しています。自社工場で使用する電力を自家発電することによって、電力会社から購入する電力を減らすと共に、Jクレジットを創出してCO₂の削減に取り組んでいます。

Jクレジット残高：

2,085t-CO₂(2020年3月現在)

エネルギー使用量・CO₂排出量の推移

三光では「地球環境保護活動」を環境基本理念とした再生可能エネルギーの活用や、排熱の有効利用の他、省エネルギー活動などを積極的に行い、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。また、毎月省エネルギー委員会において、エネルギー使用量や省エネルギー活動などの報告を行っています。



江島工場・太陽光発電をスタート！

2020年2月より、江島工場にて太陽光発電の稼働が始まりました。ソーラーパネル1,000枚以上を設置して、最大で約300kW（江島工場使用電力の約1/3）を発電することが可能となりました。この発電により、これまでの焼却炉の廃熱を利用した発電によるJクレジット制度の認証に加え、更なるCO₂の削減が実現しました。



江島工場・焼却排熱を活用したバイナリー発電を開始！

2020年3月より、江島工場（島根県松江市）でバイナリー発電が始まりました。バイナリー発電は、廃棄物を焼却する際に発生する排熱を回収、利用して約280kWの発電をすることが可能です。この発電と従来設備の小型蒸気発電により、焼却処理に使用する電力の最大1/2～2/3に相当する発電量が期待でき、熱エネルギーをより効率よく電気へ変換することが可能です。



全国でも有数の新 RPF 製造機が竣工

2019年9月、江島工場に新たなRPF製造ラインが完成し生産を開始いたしました。2基の破碎機を同時に稼働させることができます。また、従来の設備と2ライン並行で設置し、ワンオペを実現しました。この新設備によってRPF製造ラインは2ラインとなり、あわせて約6t／時間のRPF固形燃料を生産することができるようになりました。この生産量はこれまでの倍量であり、全国でも有数の設備です。



公益社団法人全国産業資源循環協会からの優良従事者表彰

2019年6月、東京都港区で行われた公益社団法人全国産業資源循環協会の総会で、三光株式会社の専務取締役の岩崎が優良従事者として表彰されました。産業廃棄物処理事業への多年にわたる従事と顕著な功績が認められての受賞です。三光では初めてとなる今回の受賞をうけて岩崎は「三光の長年の取り組みが認められ、大きな喜びを感じると共に身の引き締まる思いです。今後は環境ビジネスの幅をさらに広げ、山陰から全国へ展開できるよう一層の努力していきたい」と感想を述べました。(左端：専務岩崎)



企業懇話会を開催

2019年10月、鳥取県米子市内にて「2019年度企業懇話会」を開催いたしました。企業懇話会では、日頃から工場に廃棄物を搬入してくださっている同業者の皆様をお招きして、総勢38社の方々にご参加いただきました。常々の感謝をお伝えし、現在の業界動向などを共有させていただく目的で執り行いました。今後も定期的に懇話会を開催し、同業者の方々との交流を深めてまいります。



春・秋の環境ボランティア活動を実施

毎年、三光グループの社員とそのご家族を含め総勢約100名で、鳥取県境港市潮見町（三光潮見工場、境港昭和北緑地）、島根県松江市ハ束町（三光江島工場、江島大橋）、本社屋周辺の草刈りや草取り、ごみ拾いなどを行っています。毎回たくさんの草やゴミなどが集まります。春と秋、年に2度の環境ボランティア活動ですが、今後もきれいな工場環境の整備、きれいな町づくりに取り組んでまいります！



世界では経済発展にともない廃棄物問題が深刻化しています。
私たちの技術が問題解決の助けとなれるよう活動してまいります。

●インド・ケララ州一行の来訪

2019年11月、インド・ケララ州首席一行の山陰来訪に際し、同州政府のトム・ジョーズ首席主席秘書官以下高官5名が江島工場を訪問されました。ご一行からは非常に熱心な質問が続き、同州には無い多面的なリサイクル製品製造、廃棄物処理に強い関心を示されていました。

※JICAの「ODAを活用した中小企業の海外展開支援事業」において、インド・ケララ州におけるコンポスト製造高速化技術導入普及・実証事業を展開しています。



●ロシア・サハ共和国大臣の来訪

2019年11月、サハ共和国から、サドニコフ大臣（サハ共和国住宅・公共サービス・エネルギー省）、トロフィノフ・ヤクーツク市副市長が江島工場を来訪されました。焼却炉・選別設備・各種リサイクル製品ラインを持つ江島工場に大変感銘を受けられた様子でした。

※現在、サハ共和国ヤクーツク市向けの廃棄物処理設備の建設計画に関して、ロシア側と検討を進めています。



2. 地域への取り組み



「緊急事態発生時における廃棄物処理に関する協定」を締結

本協定は、緊急事態が発生し、各自治体や公共団体の一般廃棄物を処理する施設で対応が著しく困難となった場合に、当社が協力をさせていただく協定です。当社では、今後も各自治体及び公共団体と同様の協定を締結し、有事の際であってもより一層地域に貢献できるよう、積極的な事業活動に取り組んで参ります。

【協定締結先一覧】

鳥取県境港市、南部町・伯耆町清掃施設管理組合、鳥取県江府町、日野町江府町日南町衛生施設組合、鳥取県大山町、島根県安来市、鳥取県日南町、鳥取県鳥取市、鳥取県東部広域行政管理組合、鳥取県米子市、鳥取県日吉津村、鳥取県南部町、鳥取県伯耆町、鳥取県日野町、島根県出雲市（順不同）

サンライズさんこうの特例子会社認定

2019年5月、株式会社サンライズさんこうが特例子会社として認定されました。同社では、障がいのある10名の社員が、日々様々な業務にあたっています。

※特例子会社とは、障がいのある方々の雇用促進と安定を図るため、障害者雇用において特別の配慮をする子会社のことです。



障がい者雇用優良事業所として知事表彰

2019年12月、三光株式会社は障がい者雇用優良事業所として、鳥取県の平井知事より表彰されました。この表彰は障がい者の雇用促進と職場定着を推進するため、日頃から障がい者雇用に深い理解を示し、率先して障がい者雇用に努めている事業所や、障がいを乗り越えて模範的な職業人として従事している方、障がい者雇用に尽力した方等を知事が表彰されるものです。表彰時には平井知事から日頃の活動についての激励と、感謝の言葉を頂きました。



バーチャル工場見学導入

2019年7月より、三光本社・江島工場・潮見工場がご覧いただけるバーチャル工場見学をHPにて公開しました。天井から足元も含めた360度画像を使用しております。これにより、遠方でなかなか工場見学へ来られない方や、悪天候で見学が困難な場合も工場内にいるような感覚で工場見学をお楽しみいただけます。



工場見学に多くのお客様がいらっしゃいました

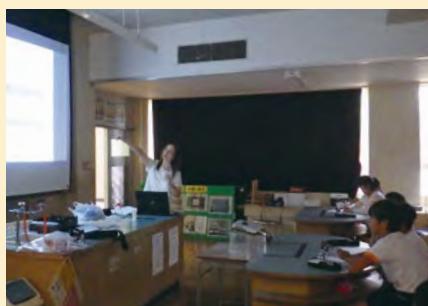
2019年度も、県内外から多くの方が見学へいらっしゃいました。鳥取県内のお客様が8件、県外のお客様が6件、その他海外のお客様も2件お越しいただき、本社で会社概要をご説明し、各工場をご案内して設備や処理についてご説明しました。



鳥取県境港市にて小学校向けに出前授業を実施

2019年6月と10月に境港市内の小学校で出前授業を行いました。

クイズや実験、カードゲームを交えながら、「廃棄物がどのように処理されるのか」、「身近でできることは何か」などを一緒に考えながら授業を行いました。今年度から新しく実施したカードゲームはとても白熱し、児童のみなさんに楽しんでいただくことができました。





3. コンプライアンスへの取り組み

全国 28 府県から「優良認定」を取得

当社は 2019 年度、産業廃棄物処理の実施に関し、全国 28 府県・2 市より「優良認定」を受けています。この認定は、過去 5 年間行政より不利益処分を受けていないこと、ISO14001 など環境事業活動を行っていること、電子マニフェストに加入していること、継続した情報公開等を行っていることが不可欠な条件となっています。その運用や適正処理が広く評価され、多くの自治体から優良認定をいただいております。

鳥取県中部地域の新たな拠点へ、倉吉営業所の積替保管オープン

2019年11月より、倉吉営業所を鳥取県倉吉市和田東町へ移転し、拠点規模を拡大いたしました。交通アクセスの良い立地に位置しているほか、鳥取県中部エリアの「積替保管」が2020年7月から可能となります。こちらの積替保管倉庫はオープンに向け、最終調整を行っております。



三光グループが発行した「コンプライアンスハンドブック」の活用

2019年に三光グループで制作したコンプライアンスハンドブックの読み合わせを、部署単位で行っています。「職場環境」、「企業活動」、「会社資産」、「社会とのかかわり」など、各側面に即したコンプライアンスの意識啓発に取り組んでいます。



三光グループコンプライアンス研修を実施

2019年12月、三光グループ顧問弁護士を講師として招き、管理職を対象にコンプライアンス研修を実施しました。コンプライアンス違反は、一度問題が発生することによって長期間に渡りブランドを傷つけたり、企業経営に影響を及ぼすこともある重要な経営課題のひとつです。受講者はこの研修で学んだことを各社(各部署)に戻ってから社員に展開、三光グループとしてコンプライアンス意識の啓発に取り組みます。



三光グループハラスメント研修を実施

2019年9月、管理職以上を対象とした「ハラスメント防止研修」を開催いたしました。外部講師を迎えて、ハラスメントの基礎知識から管理職としての現状認識、コミュニケーション力、リスク管理などを学びました。三光グループでは「ハラスメント相談室」を設置し、ハラスメント防止に努めており、「快適な明るい職場づくり」に取り組んでいます。



■コンプライアンスとは

「企業などが、法令や規則を守ること。法令遵守。」

当社では、以下の通り『コンプライアンス宣言』を行い、法令遵守に取り組んでいます。

三光株式会社は、関係する法令、条例、規定等及び自ら締結した契約、協定を熟知し、複数で監視できる組織体制を整え、いつ、いかなる時も、自らが率先して遵守し、相手にも遠慮なく意見し、遵守いただくよう努力することを宣言いたします。

4. 社員への取り組み



2019年経営方針発表会を開催

2019年5月、「SANKO夢みなどタワー」にて三光株式会社の経営方針発表会を開催しました。取引先の銀行様をお招きして毎年行っています。社長の三輪から今年度の方針について説明があり、参加した社員は方向性をひとつにしました。

後半は永らく三光グループ発展に貢献した社員に社長から表彰と記念品を授与した他、環境整備賞、かいぜん大賞など社員への労いを込めた各表彰を行いました。社員の働きがい、社員の活躍があって初めて、事業の継続、発展を成しえることができます。これからも当社は社員満足度向上を目指した取り組みを行ってまいります。



三光防災の日、防災講習を実施

2020年2月「三光防災の日」にちなみ、境港市役所から講師をお招きして、防災講習を行いました。現在流行している「新型コロナウィルス」や「火災対応」「地震・津波」「企業防災」について、自治体の視点からの講話を聞き、個人や企業に必要な心構えや対策などを学びました。講話を通じて、いつどこで発生するかわからない災害に対して、危機管理能力を高めると共に、さまざまな社内の防災訓練に活かして参ります。



若手社員研修を開催

2019年9月に入社1年目から4年目までの社員を対象とした、若手社員研修を実施しました。若手社員研修は日頃の業務から離れて、営業・製造・事務などそれぞれの業務を通して、学んだことや感じたことを振り返り、今後の目標などと共に発表することによって、入社時からの自身の成長を認識し、今後の課題や目標などを明確にすることを目的としています。



安全衛生管理研修

2019年10月「第2回三光グループ安全衛生管理研修」を行いました。

この研修は、三光グループ各社が安全衛生管理の重要性と価値を共有し、共に成長することを目的としています。各社から代表者数名が参加して、質問や活発な意見交換をするなど、参加者の安全衛生管理に対する意識の高さを感じました。今後も三光グループは研修の開催を継続し、グループ全体での安全衛生管理を徹底していきます。



ビジネスマナー研修

三光グループの取り組みとしてビジネスマナー研修を開催いたしました。入社3年以内の社員、普段お客様と接する機会の多い営業職、事務職など男女25名が参加し「接遇の基本」の考え方と実際の所作を学びました。学んだことは社内・部署で共有し、接遇マナー向上に活かしています。



会社概要

●会社案内

商 号	三光株式会社
代 表 者	三輪 昌輝
設 立	1979年9月(昭和54年)
資 本 金	4,800万円
従 業 員(三光グループ)	435名(2020年7月1日現在)
所 在 地	〒684-0034鳥取県境港市昭和町5番地17
T E L ／ F A X	0859-44-5367／0859-42-3864

●グループ会社一覧

- ・三光ホールディングス株式会社 グループの経営戦略策定及び経営管理
- ・三光エナジーサービス株式会社 石油輸送・販売事業
- ・株式会社エイチテック 地質調査・コンサルタント
汚染土壤の浄化処理事業
- ・株式会社コーケン 土木建築・運送・解体・産業廃棄物処理事業
- ・株式会社サンライズさんこう 福祉サービス事業所・産業廃棄物処理事業

編集後記

●CSR レポートの発行にあたって

今回のレポートでは、当社の2019年度の取組内容や、総合環境事業に対する姿勢などを、できるだけわかりやすくまとめることを目指しました。取引先のみなさま方に少しでも当社の活動内容をお伝えできましたら幸いでございます。(サポート部 CS 推進課 伊達・渡邊)

※こちらの報告書は、2019年4月から2020年3月までの出来事や数値に基づき作成しております。



【お問合せ】サポート部CS推進課



0859-44-5367



etcmail@sankokk-net.co.jp



<https://www.sankokk-net.co.jp>



〒684-0034 鳥取県境港市昭和町5番地17

当社のホームページでは、CSR活動や環境保護活動報告を始め、事業内容、優良産廃処理業者認定制度にかかる情報開示などを行っています。